

地域トピックス

八本松小学校

児童の避難訓練

迅速で真剣な行動を見習おう 火災発生から5分で避難

6月21日、八本松小学校で火災時の避難訓練が行われた。午後2時校内に火災発生が流れ、児童は先生の指示に従い、一斉に校舎から出てグラウンドに整然と避難した。

火災発生時の通報後、児童は複数の出口から先生の後に続き、校舎から最も離れたグラウンドの一角に集合。この間児童たちは、真剣な表情で私語もなく迅速で真剣な避難行動を見せ、グラウンドで先生の安否確認を受けた。火災発生からの753名の児童の安否確認が終わるまで要した時間は実に5分3秒という素晴らしい成績。

避難終了後、土肥校長先生は「押さない、走らない（校舎内）、しゃべらない、戻らないの避難の約束がきちんと守られていたことを評価した」と先生方のいない場所においても今日の訓練を活かし安全な場所に避難して「ささい」と児童に伝え

また、児童の迅速な行動の要因を校長先生に聴くと「こうした避難訓練の積み重ねに加え、最近、身近に頻発する災害で児童にも自分の命は自分で守る意識が芽生えてきているのでは」と話された。700人を超える児童全員の安全を確保する先生方の避難誘導体制、安否確認、延焼防止対応、避難訓練後の児童の反省等、小学校の避難訓練を見て、自治協の防災体制や自治協防災委員



口を覆い真剣に避難する児童



高評価する校長先生

会で進めようとしている「一般の方の防災対応能力の向上」に見習う点が多く見られた。

親子防犯教室

児童が犯罪に巻き込まれないために

青少年育成部会

自治協青少年部会は、6月15日、八本松小学校3年生PTCの協力を得て「親子防犯教室」を開催した。昨年までは防犯部会がこの教室を開催していたが、自治協第二期行動計画に基づき学校や地域と連携し子ども達の安全対策を充実させるため青少年育成部会に一本化。このため、青少年育成部会が開催したもの。

当日は3年生の児童とその家族約130人が小学校の講堂に集合した。



自分の考えを述べる児童

児童は、危険な場所と安全な場所を対比したスライドを見て、どちらが危険な場所か、みんなの前で自分の考えを発表し、高橋副部会長の解説で理解を深めていた。

また、見知らぬ人にあいさつされたり、道を聴かれたり、言葉巧みに車に連れ込まれそうになったりする場面を寸劇により体験。危うく怪しい人にかまりそうになる等、貴重な体験をしていた。



寸劇で危険性を体験する児童

親子防犯教室終了後、土肥校長先生は、「3年生ぐらいから好奇心が高まり行動範囲も広がることから、このような学習をおし児童自ら身を守るこ

が必要で。また、地域の多くの方に登下校時児童を見守っていただき感謝します」と述べた。

小学生将棋教室

新企画で将棋の楽しさを子ども達に ⑨ マス将棋、詰将棋、多面指し



青少年育成部会は7月6日地域センターで小学校児童を対象に将棋教室を開いた。参加したのは初級者36名、中級者19名、上級者4名の59名。

初めての児童には麓九二彦さん(日本将棋連盟東大倉支部)が駒の動き方を教えた後、数個の駒だけで行う9マス盤によりゲーム感覚で将棋の面白さを子どもたちに伝えた。

また、経験のある初級者には板井礼実香さん(郷原中学2年)が出題する詰将棋に人気が集まり、われ先に回答をと大変な活気となった。

更に、上級者の部では板井志道さん(郷原中学3年)が4名の上級者を相手に多面指し。4人とも強敵を相手に必死に食い下がっていた。

今回は児童の興味と上達を促す企画が盛り込まれるとともに、この将棋教室の元優勝者(伊藤信雄さん広大生1年)も指導に加わったことから大変盛り上がった教室となった。

9月には競技大会が予定されており、

強くなった児童の楽しい戦いを期待する。



9マス盤で対戦する初級者



駒の動きを回答する初級者



詰将棋で回答する児童



みんなもっと強くなると太鼓判を押す伊藤さん



多面指しで実力を試す上級者